



JA津軽みらい産米の一層の品質向上へ向けて 平川カンントリーエレベーター起工式

5月30日、平川カンントリーエレベーター新設工事の起工式が平川市大光寺一村井の建設地で行われ、関係者68人が参列して工事の安全を祈願した。

同施設は、国が食料自給率50%を実現するための戦略作物として、飼料用米生産拡大へ、施設再編利用計画の一環として、既存の主食米施設を統合（平賀・尾上・石川地区）する形で新設。

事業費22億5,750万円のうち14億2,868万1,000円が国や平川市の補助金を活用。（国より9億5,245万4,000円、平川市より4億7,622万7,000円）

平成24年3月の完成、同年9月の稼働を目指す。

貯蔵能力は全国4位に相当する8,000ト（サイロ500ト用16基）の規模があり、効率的な荷受を図る為トラックスケール車輛計量方式を採用。

また、品質向上にかかせない色彩選別機、異物除去装置を導入し、工事を榊サタケ（本社広島県）が請け負う。

午前11時から建設地（約2万平方メートル）で行われた起工式では、猿賀神社の山谷敬宮司が齋主を務め、全農東北広域施設事業所の山崎博久所長が齊鎌の儀、阿保組合長が

齊鎌の儀、榊サタケの福森武副社長が齊鋤の儀を入れて地鎮の儀を行った。

また、阿保組合長らJA関係者及び大川喜代治平川市長、小田桐信勝市議会議員、中南海域県民局塩谷彰地域農林水産部長、平川CE利用者連絡協議会今井三男会長らが玉串を奉奠して工事の安全を祈願した。

JAでは、「既存施設を再統合し、平賀、尾上、石川地区の主食用米を一括して荷受け・管理することによって作業の効率化を図るとともに、品質の均一化と安定したロットを確保する施設」とするため、完成後は平賀カンントリーエレベーター及び新屋ライスセンターと石川ライスセンターを平成24年に廃止。

尾上ライスセンターはJA管内の飼料用米専用施設、尾上カンントリーエレベーターはJA管外の飼料用米専用施設として活用する。



起工式で鋤入れを行う阿保組合長